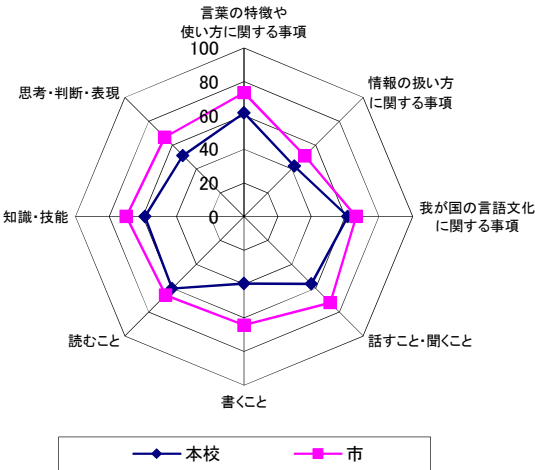


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.5	73.5	74.4
	情報の扱い方にに関する事項	42.3	51.0	51.5
	我が国の言語文化にに関する事項	61.5	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	56.4	72.3	73.7
	書くこと	39.7	64.3	66.6
	読むこと	60.3	65.8	64.9
観点別	知識・技能	58.8	69.8	70.8
	思考・判断・表現	51.3	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

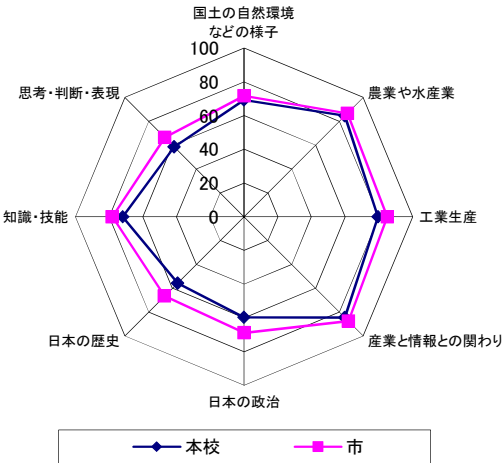
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字を書く問題は、全て市の平均を下回った。文と文の接続の関係を理解しているかを問う問題では、市の平均を35.9ポイント下回り、敬語に関する問題では、市の平均を8.6ポイント上回るものの、30.8%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きや、言葉の使い方などの定着を図るために、繰り返し学習する機会を設ける。 ・作文指導などの中で、意図的に接続詞を使う場を設定する。 ・授業だけでなく、日常生活の中で言葉遣いを意識させ、敬語の定着を図る。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理していることを問う問題では、市の平均を4.5ポイント下回った。	・情報と情報を関連付けながら、適切に文章をまとめる力をつけるために、資料や情報から読み取ったことを簡潔にまとめる活動を、各教科で積極的に取り入れる。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●和語、漢語、外来語に対する理解を問う設問では、市の平均を5ポイント下回った。	・漢字や言葉を機械的に練習するだけでなく、成り立ちや由来などにも興味をもてるように支援し、自主学習等で、自分に合った学び方ができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●意図に応じて質問を工夫しているかを問う問題では、市の平均を23.2ポイント下回り、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えているかを問う問題では、市の平均を23.3ポイント下回った。	・国語に限らず、授業の中で話し合い活動を積極的に取り入れ、会話の意図を意識して話したり、聞いたりする機会を多く設ける。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●解答形式が選択式の設問では、市の平均をやや下回っているものの、平均正答率は69.2%であったが、記述式の設問では33.8%であった。 ●特に、自分の意見とその理由を明確にして書く問題の平均正答率は、市の平均を39ポイント下回った。	・各教科において、1人1台端末を活用し、自分の考えを文章にしたり、伝え合ったりする活動を継続して取り入れる。 ・ディベートやプレゼンテーションなど、自分の意見を述べる場を設定し、自信をもって自分の意見をもてるように支援するとともに、自他の意見を尊重したり、客観的に考察したりする学習を行っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることがねらいとした問題では、市の平均を4ポイント上回った。 ●物語の人物を具体的に想像して読み取る問題では、市の正答率を16.7ポイント下回った。	・物語文を読む際に、会話文、行動、情景描写などの言葉を大切にして読み取ることを意識させる。また、音読や読書の機会を多く設ける。 ・説明文では、形式段落ごとに内容をまとめる活動を通して、叙述を基に文章の内容を捉えることができるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.2	71.6	69.6
	農業や水産業	84.6	86.7	83.7
	工業生産	79.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	84.6	87.7	77.4
	日本の政治	59.6	68.9	71.7
	日本の歴史	55.8	66.7	66.3
観点別	知識・技能	71.9	78.0	76.7
	思考・判断・表現	58.7	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

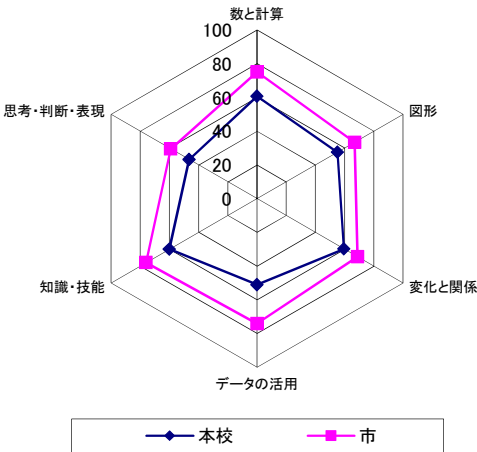
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○日本の主な地形の名称を理解する問題では、市の平均より2.9ポイント上回っており、正しい名称を理解している児童が多い。 ○国内の林業が抱えている課題について考える問題では、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ●日本の周辺の海洋名を理解する問題では市の平均を10.4ポイント下回り、名称の理解に課題がうかがえた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の主な地形、名称、位置など、知識的な内容は地図などを活用し、繰り返し確認し、知識の定着を図る。 ・地形と気候、人々の暮らしなどを関連付けて説明する学習活動を引き続き設定し、体系的な知識の育成を図る。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水産物の流通の工夫について、資料をもとに考える問題では市の平均を3.6ポイント上回っており、水産物の流通の仕組みについてよく理解できている。 ●米の生産が盛んな地域についての理解をもとに資料を判断する問題では、市の平均を5.9ポイント下回った。	・米の生産に関する学習は、学校行事や総合的な学習の時間の内容と結び付けることで、さらに理解を深めるようにする。 ・資料から情報を読み取るだけでなく、なぜそのような現状であるのかを話し合ったり、じっくり考えたりする活動を設けることで、社会的な事象に関する思考力を高めていきたい。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自動車の製造工程について理解する問題では、市の平均を3ポイント上回っている。大多数の児童が、自動車を作る作業について正しく理解している。 ●日本の工業の特色について、資料をもとに表現する問題では、市の平均を大きく下回った。	・工業生産と資源や環境について学習する際には、引き続きSDGsとの関連をもたせ、持続可能な社会のための取り組みに対する理解の定着を目指すようにする。 ・石油の輸入や石油工場が海岸沿いにある理由をしっかりと確かめることで、原料の確保や製品の輸出に特色があることを考える機会を設定し、丁寧な指導を行う。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均を5.5ポイント上回った。 ●さまざまなメディアの特徴について理解しているかを問う問題では、市の平均を11.7ポイントと大きく下回った。	・社会科の授業だけでなく、他教科や実生活との関連を意識しながらメディアの特徴について触れることで、どのような場面で活用されているのか、具体的に理解できるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ○国民の義務について理解しているかを問う問題では、9割以上の児童が正答し、市の平均を4.6ポイント上回った。 ●内閣の働きについて理解しているかを問う問題では、正答率が23.1%にとどまり、19.3ポイントと市の平均を大きく下回った。また、この問題では無回答率が23.1%と、市の平均を13ポイント上回った。	・「権利」、「義務」、「内閣」など、日本の政治に関する用語やその意味を正しく覚えるように指導する。 ・自分たちの生活と関連をもたせ、どのような場面で関わっているのか考えさせることで、日本の政治のしくみについての理解を深めるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○書院造の部屋の特徴について理解しているかを問う問題では、9割以上の児童が正答し、市の平均を6.6ポイント上回った。 ●元との戦いについての理解をもとに、防塁について表現する記述式の問題では、正答率は15.4%であり、市の平均を13.1ポイントと大きく下回った。	・各時代で起きた出来事や登場する歴史上の人物など、基礎的な知識が身に付くよう、定期的に復習に取り組むようにする。また、資料集や映像資料を活用することで、理解を深めることができるようにする。 ・出来事が起きた背景や地理的要素などについても触れることで、筋道立てて理解できるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	60.7	75.1	75.8
	図形	55.0	66.8	68.3
	変化と関係	59.5	68.8	65.0
	データの活用	51.0	74.1	63.6
観点別	知識・技能	60.1	76.1	75.8
	思考・判断・表現	46.4	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

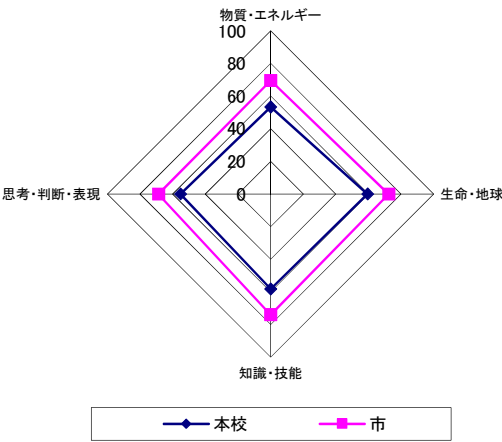
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○図を見て、小数倍の文章問題(純小数倍, 比較量を求める)を解くために乗法の立式をする問題では、市の平均を8.9ポイント上回った。 ●文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題では、市の平均を36.5ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の最後に、本時の理解度を確認する時間を設定し、確実な定着が図れるようにする。 ・文字式の理解や慣れが不十分である可能性があることから、文字に具体的な数字をあてはめたり、式の中では数と同じように扱うことができたりすることを考えて、理解させるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○直径が与えられた円の面積を求める式の理解を見る問題では、市の平均を0.9ポイント上回った。 ●三角柱の展開図から、見取図の辺の長さを読み取る問題では、市の平均を23.8ポイント下回った。	・面積や体積を求める問題での正答率が低かった。公式を使って、高さが図形の外にある三角形など、いろいろな形の面積や体積を求める問題に繰り返し取り組み、定着を図る。 ・図形の各部位の名称や位置関係についても、授業の中や1人1台端末を使った学習、宿題等で繰り返し学習し、理解を図るようにする。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○表から面積と数の割合を求め、混み具合を考察する問題では、5.2ポイント上回った。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題では、市の平均を18.1ポイント下回り、正答率は4割未満であった。	・単位量当たりの大きさの意味と求め方の理解、速さの意味と求め方の理解を深める。数直線や図を用いて基準量と比較量を確実に捉え、立式につなげ割合が求められるように定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求める問題では、市の平均を34.4ポイント下回った。 ●ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題では、市の平均を28.8ポイント下回った。	・平均の意味や用い方について押さえ、具体的な場面で考えたり、練習問題を解いたりする活動を取り入れていく。 ・ドットプロットの特徴や用い方や、代表値として最頻値や中央値を用いる場合があることの理解が深まるように、ドットプロットの「平均値」「最頻値」「中央値」を求める問題を解く活動とともに、ドットプロットのデータを表に整理する活動を取り入れる。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	53.3	69.5	65.2
	生命・地球	59.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	58.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	55.2	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について問う問題では、市の平均とほぼ同じだった。 ○食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化を問う問題では、市の平均とほぼ同じだった。 ●ふりこの1往復の動きについて問う問題では、市の平均を37.2ポイント下回った。 ●グラフを読み、食塩とミョウバンを取り出す方法について問う問題では、市の平均を35.1ポイント下回った。	・実験を行うだけでなく、なぜそのような現象が起きたり、結果が出たりするのかについてじっくり考える時間を確保し、考察につなげるようにする。 ・定期的に復習を行い、基礎知識の定着が図れるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○流れる水の量が増えたときの水の速さの変わり方を問う問題では、正答率が100%であり、市の平均を5.8ポイント上回った。 ●流れる水が地面を削るはたらきを問う問題では、市の正答率を35ポイント下回った。 ●ヒトの体の臓器の名称を問う問題では、市の正答率を18.6ポイント下回った。	・「浸食」「肝臓」など理科の学習に出てきた用語を正しく覚えていないので、実験や観察を通して正しい用語の意味を理解できるように丁寧に指導していく。 ・生物と環境の関わりについて、知識として覚えるだけでなく、自分との関わりを考える場の設定など、学習内容を身近なものとして捉えられるような工夫をし、学習意欲を高めていけるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力を高めるための取組	様々な教科での学習や場面を利用して、書き方の形式に沿って書いたり、自分の考えを書いたりする活動を意図的に取り入れていく。	自分の考えを書く設問においては、国語、算数ともに、正答率が市の平均正答率を下回ったものが多かった。自分の考えに自信をもつことができない児童も多い。
生活リズムを整え、学習への意欲を高めるための取組	家庭との連携を図りながら、今年度の重点合言葉「早寝・早起き・メディアコントロール」を意識付けられる指導を行う。	早寝早起きや、メディア機器の使用について、昨年度と比較すると、生活習慣が改善していることが分かった。家庭との連携や長期休業のメディアコントロールチャレンジなどが効果的であったと考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

今年度の重点的な取組を継続していく。 書く力を高めるための取組においては、各教科において、自分の考えを整理したり表現したりする思考ツールを活用するなどの個に応じた手立てを考えていくとともに、自信をもって書いたり発表したりできるように支援していく。また、生活リズムを整え、学習への意欲を高める取組においては、引き続き、家庭と連携を図りながら、重点合言葉を意識させた生活を送るための手立てを強化させていく。
